

# 「わかる授業・できる授業のためのICT活用」効果的な6つの活用場面

笠岡市教育委員会 学校教育課

改訂版



教員がICTを活用して指導する例(教科書の図などを大きく映しながら説明している)

教育の情報化に関する手引(文部科学省)より転載

笠岡市内小・中学校の全ての普通教室には、「実物投影機+プロジェクタ+マグネット式スクリーン」が整備されています。内容は小学校中心ですが、フラッシュ型教材も全教室で活用できます。26年度には全普通教室と一部の特別教室へタブレット一体型ノートPCも入りました。これらはすでに日常的に・積極的に活用されていますが、効果的な活用場面を意識しておく、よりいっそう、わかる授業・できる授業が実践しやすくなります。

あなたは次の6つの活用場面のうち、どれを実際に行っていますか。実施したことがない場面はどれですか。☑を付けながら、授業のねらいを達成するためのより効果的なICT活用について、改めて考えを整理してみましょう。

## ●先生が活用する

### □1 わかりやすく説明したいとき・理解を深めさせたいとき

大きく提示して説明したり、実際には見えにくいものを提示したりする。

例 実技の演習する際の先生の手元、目盛り(分度器、温度計、等)、教科書の図やグラフ、子どものノートの記述 等

### □2 基礎・基本を定着させたいとき

大きく提示することで手順をはっきり示し、わかりやすく説明する。フラッシュ型教材を活用する。

例 辞書のひき方、原稿用紙やワークシートの使い方、新出漢字の書き方、ものさしの使い方、パレットの使い方 等 フラッシュ型教材を活用した繰り返し学習

### □3 学習習慣を身に付けさせるとき

正しい見本を大きく映して見せて、子どもに同じようにさせる。

例 鉛筆の持ち方、ノートの書き方、姿勢、手の上げ方 等

### □4 興味・関心を高めたいとき

大きく映して、子どもたちの興味・関心を高める。

例 教科書のさし絵、書籍や新聞の写真、実物 等

### □5 課題をしっかりとつかませたいとき

大きく映して、大事なところをいっしょに確かめる。

例 教科書の問題文を吟味する、前時のまとめで書いた子どものノート 等

## ●子どもたちが活用する

### □6 発表するとき

大きく映して、わかりやすく自分の考えを発表する

例 教科書、自分のノート、自分が用意した写真・書籍・新聞、等



子どもがICTを活用して発表する例(自分の考えをインターネットや新聞から得られた情報をもとに説明している)

教育の情報化に関する手引(文部科学省)より転載



## ICTが授業をするのではなく 授業をするのは「あなた」です。

- 1 授業力があるからこそICT活用が生きるのです。あなたの授業力にICT活用を組み込みましょう。
- 2 大きく映す機器にも種類は様々ありますが、大きく映すことができれば、どの機器でも役割は同じです。むしろ教員が重視すべきは、機器の種類ではなく「映す内容」そして「映したときにどんな発話を行うか」です。

参考資料:「わかる・できる授業づくりにICT活用を！」(パナソニック教育財団)